主体的・対話的に学びを深めることのできる学習指導の改善
～対話とリフレクションを取り入れた校内研究を通して～

十島村立悪石島学園

1　研究のねらい

対話とリフレクションを取り入れた校内研修を通して，教師自身の教育観を見つめ直したり，年間を通して授業改善を行ったりする手立てを構築しながら，チーム学校として主体的・対話的に学びを深めることのできる学習指導法の改善のあり方について究明することをねらいとした。

2　研究の概要

本研究は令和４年度から同じ主題を掲げ，研究を積み重ねてきている。これまでに，課題設定や効果的な対話，学びの達成感やよさを実感する手立てなどについて成果が見られた。

一方で，「よりよい手立てを追求することに焦点を置いているが，研究が日常的な実践に生かされていない。」，「学年や教科を越えた意見交換が不十分。」などの課題もみられた。そこで令和６年度は，より教師一人一人のニーズに応じ，教師同士がつながる研修を構築していく必要があると考え，校内研修に「テーマ対話」，「自己リフレクション」，「対話リフレクション」を取り入れて，年間を通して計画的に取り組んでいくことにした。

3　研究の内容

テーマ対話	「本校の子供のよさや課題」などの１つのテーマをもとに，４人程度のグループで行う対話のことである。このテーマ対話を通して，教師自身の教育観や，授業改善の手立てなどについての新たな学びや気付きが生まれることを目的としており，そこで生まれた学びや気付きを日々の実践へと生かしていくようにする。
自己リフレクション	教師一人一人の日々の授業実践の中で問いを立て，実践し，振り返るサイクルのことである。ここでは，タブレットを活用することで取組の蓄積を行い，取組を振り返ったり，教師間で取組を共有したりしていくようにする。
対話リフレクション	授業研究や自己リフレクションでの取組を共有する際に行う対話のことである。対話リフレクションを通して，教師自身が教育観を見つめ直し，授業改善の手立てなどについて新たな学びや気付きが生まれることを目的としており，そこで生まれた学びや気付きを，日々の実践へと生かしていくようにする。

4　研究の実際

⑴　テーマ対話

５月下旬に，「児童生徒のよさや課題」，「目指す児童生徒の姿」をテーマにテーマ対話を実施した。児童生徒のよさとしては，「意欲が高く，児童生徒間の仲がよい。」，課題としては，「後期課程卒業後に島を離れることへの不安。」，「多様な考えが出にくい。」，「ディベート不足。」などの意見が出た。それらをもとに目指す児童生徒の姿について話し合うと，「自己理解」，「表現力，コミュニケーション力」，「目標設定力」，「自立，自律」，というキーワードが明らかになった。そこで，本年度の目指す児童生徒の姿を，「自他を認め，伝え合うことのできる児童生徒」と設定することにした。

また，11 月下旬には，「研究公開の成果や課題」というテーマのもと，11 月８日に行った研究公開の成果や課題についてのテーマ対話を行った。

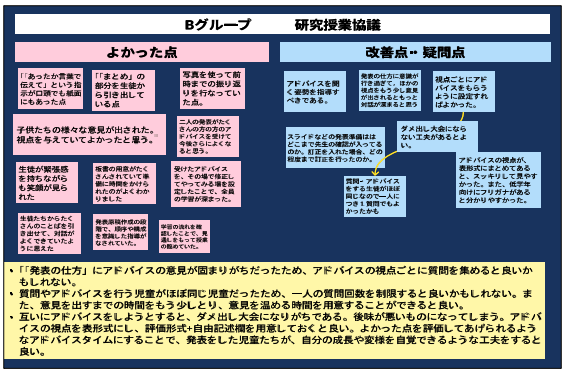
⑵　自己リフレクション

６月上旬に研修係から自己リフレクションの進め方を説明した。具体的には，まず，テーマ対話を通して設定した目指す児童生徒の姿の実現に向けて，教師自身が担当している児童生徒の実態や，学習指導法を振り返るようにした。次に，設定した目指す児童生徒の姿の実現に向けた指導上の課題を，「～するにはどうすればよいか。」という視点で分析し，その課題の解決策を考えるようにした。その後，目指す児童生徒の姿の実現に向けて，年間を通して実践と振り返りを繰り返すようにした。

⑶　対話リフレクション

自己リフレクションの取組を共有する際に，対話リフレクションを実施した。ここでは，自己リフレクションの取組の実際や成果，課題を共有する場を設けた。すると，教師間で取組に対する質問や助言をする姿が見られた。

また，自己リフレクションの取組を反映した研究授業後には，対話リフレクションを取り入れた授業研究を実施した。ここでは，研究授業で見られた児童生徒の姿を基に，授業のよさや課題，改善点を出し合うようにした。その後，教師一人一人が学んだ授業のよさを出し合い，自身の実践を振り返ってもらうようにした（自己リフレクション）。なお，授業研究における対話リフレクションでは，ロイロノートの共有ノートを活用し，発言の記録や振り返りの記入ができるようにした。



5　研究のまとめ

⑴　成果

・　テーマ対話や対話リフレクションの取組は，職員が協働的に関わり合いながら授業改善に取り組む上で有効であった。

・　自己リフレクションの取組は，教師が個人の課題や興味・関心に応じて個別最適に授業改善に取り組む上で有効であった。

⑵　課題

・　対話リフレクションを通して，自己リフレクションの共有や見直しを行っていたが，日々の実践の中で「もっと他の教師からの意見や助言が欲しい。」という声があった。

・　教師一人一人の取組に応じた支援の在り方の検討や，自己リフレクションを進める上での詳細なスケジュールを作成する必要がある。

・　チームを組んで定期的に対話リフレクションを行うなど，対話リフレクションの在り方を見直す必要がある。

6　今後の取組

・　教師一人一人の取組に応じた支援の在り方の検討。

・　教師間の意見や助言を交換・共有できる場や機会の設定。

・　自己リフレクションを進める上での詳細なスケジュールの作成。

・　対話リフレクションの在り方の検討。